

一刻も早く核兵器禁止条約に署名、批准することを求める決議

幾千の人の手足がふきとび
腸わたが流れ出て
人の体にうじ虫がわいた
息ある者は肉親をさがしもとめて
死がいを見つけ そして焼いた
人間を焼く煙が立ちのぼり
罪なき人の血が流れて浦上川を赤くそめた

ケロイドだけを残してやっと戦争が終わった

だけど……
父も母も もういない
兄も妹ももどってはこない

人は忘れやすく弱いものだから
あやまちをくり返す
だけど……
このことだけは忘れてはならない
このことだけはくり返してはならない
どんなことがあっても……

これは、1945年8月9日午前11時2分、17歳の時に原子爆弾により家族を失い、自らも大けがを負った女性がつづった詩である。田上富久長崎市長の「長崎平和宣言2019」の冒頭である。

田上市長は「自分だけではなく、世界の誰にも、二度とこの経験をさせてはならない、という強い思いが、そこにはあります。原爆は「人の手」によってつくられ、「人の上」に落とされました。だからこそ「人の意志」によって、無くすことができます。そして、その意志が生まれる場所は、間違いなく、私たち一人ひとりの心の中です」と訴えた。

また、日本政府に対して「日本は今、核兵器禁止条約に背を向けています。唯一の戦争被爆国の責任として、一刻も早く核兵器禁止条約に署名、批准してください。そのためにも朝鮮半島非核化の動きを捉え、「核の傘」ではなく、「非核の傘」となる北東アジア非核兵器地帯の検討を始めてください。そして何よりも「戦争をしない」という決意を込めた日本国憲法の平和の理念の堅持と、それを世界に広げるリーダーシップを発揮することを求めます」と訴えた。

核兵器禁止条約の署名・批准を求める「ヒバクシャ国際署名」を進める長崎県民の会は、長崎県知事、市長らの協力も得て同署名を集めている。同会は9月9日、目標50万人署名を突破したと発表した。

松井広島市長も日本政府に核兵器禁止条約に署名、批准を求めている。

ヒバクチャー世の平均年齢は83歳、本市のヒバクシャも「ノーモア・ヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャ」を求めている。残された時間は僅かである。

よって、本市議会は、政府に対し、ヒバクシャの思い・願いを真摯に受け止め、一刻も早く「核兵器禁止条約」に署名、批准することを強く求める。

上記、決議する。

令和2年9月30日

三 鷹 市 議 会